

経済指標ウォッチャー

中国GDP成長率（2020年7～9月期）は改善

個人消費の回復を受け、新型コロナウイルス流行前の水準に近づく

GDP（国内総生産）とは？

Gross Domestic Productの略で、国内において一定期間内に新たに生産されたモノやサービスなどの合計金額。その国の経済力の目安に用いられる。

前年同期や前期と比べ、どのくらい増加（減少）したのを見ることで、国内の経済成長を推定することが可能となる。GDPの増減率を%で表したものを『GDP成長率』と呼ぶ。

2020年第3四半期GDP成長率は改善

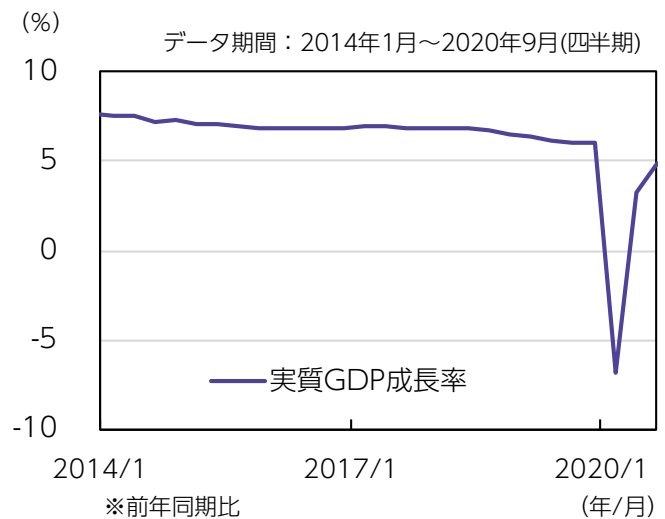
中国国家统计局が10月19日に発表した、2020年7～9月期の実質GDP（国内総生産）成長率（速報値）は、前年同期比+4.9%と改善しました（図表1）。事前予想（同+5.5%）は下回ったものの、2四半期続けてのプラス成長となっています。新型コロナウイルス感染拡大を受けた都市封鎖などにより、経済活動が停滞したことなどから、2020年1～3月期は同-6.8%と四半期ベースで統計データが公表されている1992年以降で初のマイナス成長となりましたが、足元では再び成長軌道に乗り始めたようにも思われます。

個人消費の回復がGDP改善に寄与

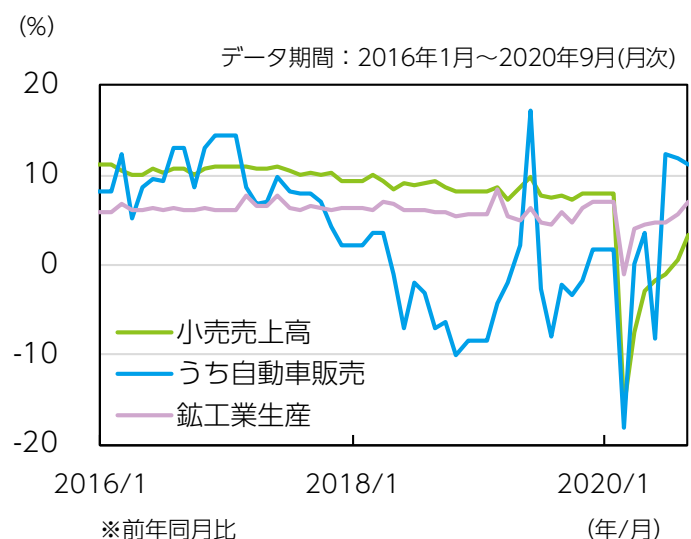
実質GDP成長率の改善は、中国では新型コロナウイルス感染が早期に収束しており、経済活動の再開が早かったためとみられます。足元では経済活動正常化を受けて個人消費の回復が顕著となっており、小売売上高は前年同月比でプラスに転じています（図表2）。小売売上高の回復には、地方政府などが実施している自動車販売への補助金やコロナ後も好調なインターネット販売などが寄与しているようです。個人消費の回復に伴うモノの販売が好調なことで、鉱工業生産が緩やかに改善し、製造業が回復していることも実質GDP成長率の改善に寄与しているとみられます。

IMF（国際通貨基金）の見通しでは、中国を除く主要国は2020年の実質GDP成長率がマイナス予想となる一方、中国はプラス成長が見込まれています。今後も中国経済が世界景気を牽引することが期待されています。

図表1：2020年第3四半期GDP成長率は改善



図表2：個人消費の回復がGDP改善に寄与



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>